

評◎白石公子／豊崎由美／仲俣曉生／渡邊十麻子

## 彼女に関する 十二章

著◎中島京子  
中央公論新社 1500円

50代の人生にも  
まだまだ驚くようなことは起きる



**直**木賞をはじめとする有名文学賞を多々受賞している人気作家、中島京子の力量が半端じゃないことを如実に示すのが『彼女に関する十二章』です。この小説は2014年夏から1年間かけて本誌で書き続がれた作品。媒体の特徴に配慮するというサービス精神溢れる中島さんは、主人公を50歳の女性にすること、約60年前の『婦人公論』に連載され、のちに大ベストセラーになった伊藤整の『女性に関する十二章』を下敷きにすることを自らに課したわけですが、これが大成功！本誌読者の心の琴線に触れまくる、笑い袋のスイッチ押しっぱなしの小説になっているんです。

知り合いの税理士事務所週3日ほどアルバイトをしている50歳の主婦・聖子は、息子の勉が関西の大学院に通っているため、現在は同い年の夫・守と二人暮らし。女っ気がまったく感

じられない勉が心配の種ながら、ますます平穩無事な毎日を送っています。その日常に、初恋の人の息子が現れたり、税理士事務所から出向扱いという形でNPO法人「サポートステーション・ゆらゆら」に毎日通うようになったことで、いろんな変化が生じることになり――。

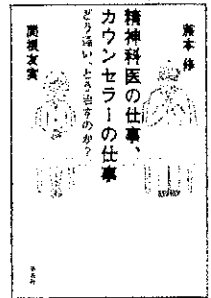
伊藤整のエッセイ集の章立てと内容に準じる工夫がこらされたこの小説における、聖子の〈50歳になっても、人生はいちいち驚くことばかり〉な日々と、思わすうなすいたり笑ったりしてしまう〈脳内独白〉の数々に触れていると、人生まだまだ楽しいことや驚くようなことが起きるにちがいないと思えてきて、元気がわいてくるんです。そんな読んで面白い物語の中に、現代社会批評を無理なく差しさむ技も、さすがというべき。われらが世代の代表と呼びたくなる作家なのです。（豊崎）

## 精神科医の仕事、 カウンセラーの仕事

どう違い、どう治すのか？

著◎藤本 修・関根友実  
平凡社 1500円

心の悩みをかかえたとき  
頼れる知識をくれる本



**昨**年、国会で「公認心理師法」が成立した。これまで、精神科医以外で精神・心理的なテーマの面談や助言を行う人は、心理療法士やセラピスト、臨床心理士などさまざまな名称で呼ばれていたが、そうした分野に新たに国家資格を設けるといことになる。

基本的に、公認心理師は医師の指示を受けて働く。臨床心理士などは、医師と連携はするが指示は受けず、独立性が高い。その仕事内容を知っておけば、将来、精神的に調子が悪いので医療機関に相談してみたいと思ったり、家族が心の悩みをかかえて苦しんでいるのに気づいたときなどに、頼れる知識となるに違いない。

この本の著者は、ひとりとは精神科医、もうひとりとは臨床心理士であり、同じクリニックで連携しながら患者の精神的な健康を回復させてきた。この本では、

上司の善動が受け入れられず出勤が苦痛になった男性会社員Aさんという具体例を、初めての受診から治療の最終までの流れにそって見ていく。精神科医と臨床心理士が患者の状態や訴えをどう把握し、どんな対応をしたかを、それぞれに解説している。

精神科医は医学の知識に、臨床心理士は心理学の知識にもとづいて患者を観察し、対話を重ねながら患者の問題を解きほぐす。医師は、患者の「病氣」を発見し、必要に応じて薬を出すなどして病を小さくしようとするし、臨床心理士は病氣の発見よりも人格の全体を把握し、健康な状態にもっていくことを目指す。それぞれのアプローチの違いがわかった。両方を並行して受診できるということも、この本で初めて得た知識だ。精神医療の進化を、存分に活用しましょう。（渡邊）

## New 新刊情報

### ワンダフル・ワールド

著◎村山由佳／新潮社 1400円



人間の五感の中で最も本能に直結し、記憶に残りやすいと言われる嗅覚。恋愛小説の名手が今回手がけた短編のテーマは、「香り」だ。恋と呼べるかわからないけれど、代えのきかないこの想いは何か？普通の恋愛を卒業した、大人のための5つの物語。

### 小説家の四季

著◎佐藤正午／岩波書店 1900円



カフェオレポウルについて、「透明感のある文章」について、「結婚」と「ゴミ袋あさり」のつながりについて……。佐世保在住の作家が小説を書きながら、日常のなかで折々に考えたことを綴ったエッセイ集。読み進むうちに、手練れの巧みな文章に引き込まれる。

### 崩壊するアメリカ

トランプ大統領で世界は発狂する!?

著◎横江公美／ビジネス社 1400円



キャラの立った候補が熱戦を繰り広げる米大統領選挙は、まるでTVショー。トランプ氏が政権をとったら日本が受ける打撃とは？最大のマイノリティ「女性」初の大統領は誕生するか。在米経験豊かな政策アナリストがかの国の本音に迫り、未来を見通す。